

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	理科	科目	生物基礎	学年	1年次	単位数	2単位	
教科書	東京書籍	新編生物基礎	副教材			なし		
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	8回	メディア 視聴票	4通	試験	2回	
指導 目標	<p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験（映像教材などを含む）などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>							
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)		
1	4月12日	5月22日	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性 細胞の特徴 生体とATP 呼吸と光合成 	2	<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性 酵素のはたらき 	<ul style="list-style-type: none"> 1 生物の特徴 2 生物の多様性 3 生物の共通性 4 細胞の特徴 5 生体とATP 6 酵素のはたらき 7 呼吸 8 光合成 	
2	5月22日	6月19日	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子 DNAの複製と分配 タンパク質 細胞の分化と遺伝子 	1	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造 タンパク質と遺伝情報 	<ul style="list-style-type: none"> 9 生物と遺伝子 10 DNAの構造 11 DNAの複製と分配 12 タンパク質 13 タンパク質と遺伝情報① 14 タンパク質と遺伝情報② 15 細胞の分化と遺伝子 16 遺伝子と私たち 	2
3	6月19日	7月17日	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境 内分泌系による情報伝達 	1	<ul style="list-style-type: none"> 神経系による情報伝達 血糖濃度の調節 	<ul style="list-style-type: none"> 17 体内環境 18 神経系による情報伝達① 19 神経系による情報伝達② 20 内分泌系による情報伝達 21 血糖濃度の調節 22 人体図鑑 	
4	7月17日	10月29日	2章 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 免疫のしくみ 免疫とさまざまな疾患 	2	<ul style="list-style-type: none"> 免疫の応用 	<ul style="list-style-type: none"> 23 免疫のしくみ① 24 免疫のしくみ② 25 免疫の応用 26 免疫とさまざまな疾患 27 体内環境と私たち 	
5	10月29日	11月27日	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの植生 遷移とバイオーム 	1	<ul style="list-style-type: none"> 植生の遷移 	<ul style="list-style-type: none"> 28 身の回りの植生① 29 身の回りの植生② 30 植生の遷移 31 さまざまな植物の環境への適応 32 遷移とバイオーム①～世界のバイオーム～ 33 遷移とバイオーム②～日本のバイオーム～ 	2
6	11月27日	1月23日	2章 生態系と生物の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 生態系における生物の多様性 生態系と人為的攪乱 	1	<ul style="list-style-type: none"> 生態系における生物間関係 生態系の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 34 生態系における生物の多様性① 35 生態系における生物の多様性② 36 生態系における生物間関係 37 生態系と人為的攪乱 38 生態系の保全① 39 生態系の保全② 40 生態系と私たち 	
学習の成果に係る評価規準								
<p>【知識・技能】</p> <p>・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>・観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p>								
<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験（映像教材などを含む）などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。</p>								
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。</p>								
<p>○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。</p> <p>○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。</p>								
単位の修得の認定に関する基準								
<p>観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。</p>								